

# エントロピー学会だより

No.185

Web-site <http://entropy.ac/>

2015年4月24日

エントロピー学会

## 2015年度第1回世話人会開催のお知らせ

本年度の第1回世話人会を以下の要領にて開催いたします。世話人会は会員であれば誰でも参加して意見を述べることができます。また、新しく世話人になろう、とお考えの方も奮ってご参加ください。

尚、当日世話人会の前に「特別セミナー」(p.2参照)も企画されていますので、そちらの方へもご参加ください。

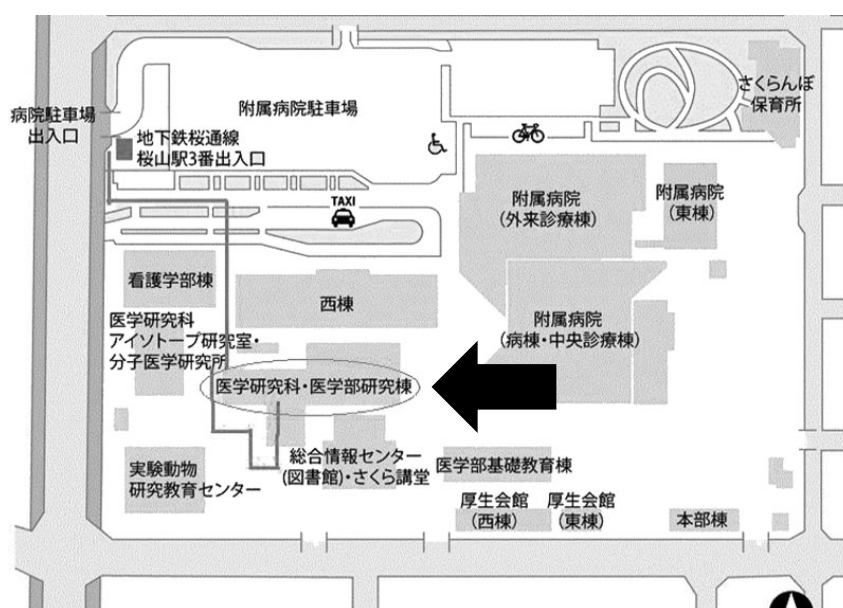
【日時】 2015年5月9日(土) 15時00分より

【会場】 名古屋市立大学桜山キャンパス

医学研究科・医学部研究棟1階 非常勤講師控え室

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

(市営地下鉄桜通線「桜山」駅3番出口より徒歩30秒)



交通アクセス：<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/guide/access.html>

キャンパスマップ：[http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/guide/campus\\_map.html](http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/guide/campus_map.html)

## 2015 年度世話人を募集いたします

エントロピー学会では、世話人による協議を中心とした運営を行っています。世話人は選挙ではなく、会員であれば誰でも自己申告してメンバーになることができます。現在、世話人会は春秋の研究集会に合わせて年 2 回ほど開かれ、その時折の学会の運営に関する事などを議論しています。学会活動の活性化の一翼を担わんと欲する方は（特に若い方は大歓迎です）、奮ってご参加ください。

尚、世話人になりたいとお思いの方は、事務局にお申し出いただくか、世話人会へ直接ご出席ください。

（事務局担当世話人 福本敬夫）

## 世話人会の前に特別セミナーを開催します

世話人会当日、同じ建物内におきまして以下のような「特別セミナー」を開催します。こちらの方も奮ってご参加ください。

（青木秀和）

【日 時】 2015 年 5 月 9 日（土）13 時 00 分 から 14 時 45 分

【場 所】 名古屋市立大学桜山キャンパス 医学研究科・医学部棟 1 階 会議室 1

※会場へのアクセスは、p.1 をご参照ください。

【テーマ】 需要者から見たわが国電力事業の総合的解析

【話題提供者】 青木秀和・河宮信郎

【内 容】 わが国の電力事業の電源別コスト・パフォーマンスは、モデルプラントを想定した送電端における「発電単価」によって測るのを通例としてきた。しかし、需要者にとってより関心があるのは、自分が直接支払う「購入価格」のうち、発電から送電、変電を経て手元に届くまでかかった費用（「総括原価」）に、購入時の税負担を加えた「需要端電力原価」がどのくらい占めているかである。過去の電力産出データと財務会計データからの導出したこの原価の推計結果を示す。加えて、発電プラント別に発電量を把握できるならば、プラント別に（たとえば F1 の原子炉ごとに）費用・収益が推計可能となることを論証する。

【参加費】 無料（どなたでもご参加いただけます）

【問合せ先】 aoki.hidekazu@nifty.ne.jp 090-5871-4596（青木携帯）

## 地域セミナーから

### ■ 関西セミナー

#### 2015年第1回関西セミナー開催報告

テーマ：「アベノミクスの対立軸は脱成長だ！」

話題提供者：福本敬夫（会員・大阪大学教員）

開催日時：2015年3月15日（日）13時00分 から 16時00分

会場：同志社大学今出川校地「良心館」410号教室

昨年暮れの総選挙において、野党はアベノミクスに対する何ら対立軸を示すことができず大敗した。アベノミクスは、1) 大胆な金融政策、2) 機動的な財政政策、3) 民間投資を喚起する成長戦略の「三本の矢」からなっている。このアベノミクスが進んだ結果、格差が顕在化し、貧富の拡大、地方の衰退、労働の固定化（正規になれない）をもたらした。それでは、何がアベノミクスの対立軸になりうるのか。それが脱成長である。

ここで注意しなければならないのは、脱成長という言葉にはネガティブなイメージがあるので、丁寧に説明する必要がある。「脱成長とは、成長を止めるということではない。発展パラダイム（経済の成長がなければ、豊かな社会は訪れない）の呪縛から脱却し、身の丈にあった成長を目指すことにより、20世紀的成長（モノの豊かさの追求）から21世紀的成長（ココロの豊かさの追求）への転換を目指す道である。」

さらに、脱成長を実現するためとして三つの提案がなされた。

1) 大都市の解体。税制面での優遇策などを用いて企業の地方移転を促す。ローカルな循環社会に適した経済規模の縮小化をはかる。

2) 働き方を変える。完全同一労働同一賃金同一労働条件を確立する。その一例としてオランダの「ポルターモデル」が紹介された。

3) お金・モノの流れを変える。地域通貨などを活用し、地域内でお金が回る方策。地域経済を活性化して雇用を創出する。

質疑討論においては、観念的な議論に終わることなく、どのようにして実現していくかに力点をおいて討論を行った。さらに、ピケティの「21世紀の資本」やハーマン・デイリーの「定常経済は可能だ！」といったことまで話は広がり、経済成長の問題点に関する十分な議論も行われた。

（福本敬夫）

## ■お知らせ

### ●えんとろぴい編集委員会からのお知らせ

今回の同送にて「えんとろぴい」第76号をお送りいたします。半年の遅延になり大変申し訳ありませんでした。次号、第77号の締切ですが、5月末に再延長しております。どうぞよろしくお願いいたします。現在までの投稿分は2本の論考ですので、まだまだ皆様の投稿をお待ちしております。また、編集委員会に対する今後の発行のありかたや企画についてのご提案もお受けしております。

なお、5月9日の世話人会の終了後、17時～17時半の予定で編集委員会を開催しますので、編集担当世話人の方々とご関心おありの方はご参加ください。

(『えんとろぴい』編集委員会 藤堂)

### ●会費の納入について

エントロピー学会の会計は慢性的な赤字が続いております。繰り返しとなりますが、会費の納入をお願いします。最終の入金年月日は封筒の宛名シールに記載しております。すでにご入金いただいた方には、行き違いとなることをご容赦ください。

---

## 編集後記

2015年度も引き続き「えす」の編集を担当させていただきます。

近年「えす」の発行が予定より遅れてしまうことが多く、掲載している研究集会や地域セミナーの開催直前にお手元に届くこともあり、特に遠方から参加を検討してくださる会員のみなさまには、大変ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。「えす」の発行が遅れていることについて、会員のみなさまから、ご意見、ご指摘もいただき、編集担当世話人としても重く受け止めております。研究集会等イベントの案内を掲載している場合は、可能な限り早めにお手元にお届けできるよう努力したいと考えております。

現在の「えす」の発行の遅れや発行ペースの課題については、今号に案内を掲載しております第1回世話人会の中できちんと協議、相談できればと思っています。

今年度もどうぞよろしくお願い致します。

(『えす』編集担当世話人 山見拓)

エントロピー学会

〒600-8085 京都市下京区葛籠屋町 515-1 電話：075-708-8063 Fax：075-708-8062

郵便振替番号：00950-5-187041 e-mail：office-k@entropy.ac